

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和2年度病虫害発生予察注意報第4号について

イチゴのハダニ類については、11月は平年並の発生量でしたが、12月には急増しており、寄生株率は過去10年で、最も高くなっています。ハダニ類がみられるほ場では至急密度の低下を図ってください。この時期に発生を抑えておかないと、春先に急増して防除が困難となります。

多発後は防除が困難ですので、防除対策を徹底し、発生密度の低下に努めましょう。

注意報第4号

- 1 対象作物名：イチゴ
- 2 病虫害名：ハダニ類
- 3 発生量（現況）：多
- 4 注意報の根拠

- (1) 12月3半旬調査の結果、寄生株率は23.2%、発生ほ場率は58.3%で、平年・前年より高く、寄生株率においては、過去10年でもっとも高くなっている。
 - ・ 12月3半旬の寄生株率 **23.2%** (平年 8.0%、前年 17.3%)
 - ・ 12月3半旬の発生ほ場率 **58.3%** (平年 41.6%、前年 42.9%)

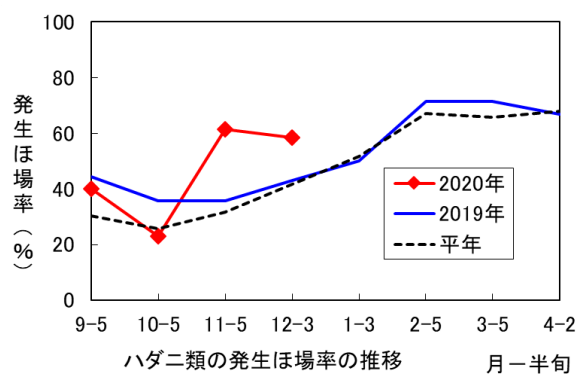
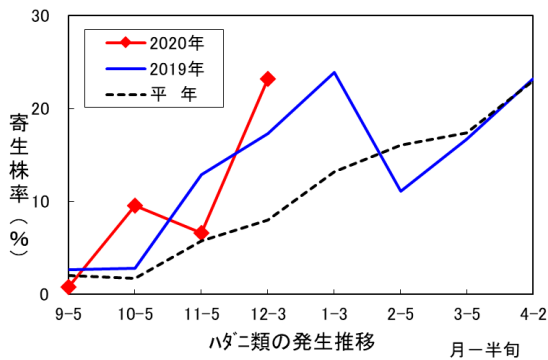


表1 イチゴのハダニ類の12月3半旬における発生状況(過去10年)

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	平年
寄生株率(%)	10.4	5.7	7.3	7.8	14.1	6.8	3.1	3.0	17.3	23.2	8.0
発生ほ場率(%)	54.5	43.5	34.8	58.3	64.3	50.0	21.4	21.4	42.9	58.3	41.6

(2) ほ場間で差は大きいですが、クモの巣様がみとめられるほど多発しているほ場もある。

表2 イチゴ定期調査ほ場におけるハダニ類の発生状況

調査地点	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	
(参考)														
寄生株率 (%)	11月5半旬	0	0	10	6	0	2	34	8	0	0	14	10	2
	12月3半旬	2	0	0	32	0	38	74	16	38	0	78	—	0

※11月5半旬調査:発生ほ場率 61.5%、12月3半旬調査発生ほ場率 58.3%

5 防除上注意すべき事項

- (1) ハウス内の雑草は、除草を徹底し増殖源を絶つ。除草した雑草や摘葉した葉はハウス内に放置せず、ビニル袋等に入れてほ場から持ち出し、処分する。
- (2) 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、発生初期の防除を徹底する。なお、防除は摘葉後に行うと効果的である。
- (3) ハダニ類に登録のある薬剤の多くは浸透移行性に乏しいため、必要に応じて展着剤を加用し、葉裏に薬剤が十分かかるよう、丁寧な散布を心がける。
- (4) 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の連続散布の連用は避け、気門封鎖剤も含めて、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- (5) 気門封鎖剤は、卵に効果が低い剤もあり、残効性も短いので、連用する場合は約7日間隔で複数回散布する。
- (6) ミツバチに影響が少ない薬剤を使用する。
- (7) 天敵を利用している場合は、天敵に影響が少ない薬剤でハダニ類の密度を低下させ、天敵を放飼する。ただし、ハダニ類が多発して天敵を主体とした防除が難しい場合は、殺ダニ剤を中心とした化学農薬による防除に切り替える。



ナミハダニの雌成虫および卵



ナミハダニが多数寄生した葉裏

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka/>



最新の病害虫発生状況